

令和 6 年度(2024 年度)高校講座実施報告
(2 月分)

●三重県 県立上野高等学校(令和 7 年 2 月 13 日)

講演テーマ: 国際社会で生きていくためには(外交の現場から)

講師: 国際協力局 気候変動課 大沼寛 首席事務官



●兵庫県 私立神戸山手女子高等学校(令和 7 年 2 月 19 日)

講演テーマ: 外交について

講師: 在釜山日本国総領事館 飛岡健太 領事



●三重県 私立(皇學館高等学校(令和 7 年 2 月 21 日)
講演テーマ: 国際社会で生きていくためには(外交の現場から)
講師: 国際協力局 気候変動課 大沼寛 首席事務官



●神奈川県 県立青山学院横浜英和高等学校(令和 7 年 2 月 21 日)
講演テーマ: 外交について
講師: 総合外交政策局 宇宙・海洋安全保障政策室 内藤正彪 課長補佐



●新潟県 県立小千谷高等学校(令和7年2月21日)

講演テーマ: 外務省と外交

講師: 大臣官房 外務報道官室 高橋里佳 主査



参加者からの感想(抜粋)

- 現代のグローバルな課題に対する日本の立場について学ぶことができた。外交に携わることに対する責任感や情熱が直に伝わってきて、外交の重要性を再認識することができた。
- 講師の「誰にでも寄り添える仕事」という言葉にとっても心を惹かれた。自分自身も誰かの役に立てる仕事に就くことを目指しているので、この講座で得たことを将来に活かしていきたい。現代は、情報はインターネットを通じて誰にでも広がり、それと同時に嘘の情報などもたくさんあるので、インターネット上の本当に必要な情報を見極める能力を磨きたい。
- 海外の文化についての異文化理解の姿勢を見つめ直すきっかけになった。外務省とはどのような場所なのか、またどのような取り組みを行なっているのかなどの勤めている人からでないと聞けないような話をたくさん聞けてとてもよい経験になった。
- 世界を取り巻く気候変動の現状を改めて知り、外務省の仕事について知ることができた。外交に対する日本の姿勢についての話から、一つ一つの行動にきちんとした考えがあることを知った。
- 話の中でいつもの当たり前が、場所を変えれば当たり前でなくなることを気づかされた。自分の中にある固定概念を崩して、相手に立場に立って物事を考えることも大切で、世界共通で大切なことは自主性であることを知った。

- 外務省の仕事は自国のことをよく理解しておくことはもちろん、それを他国の人へ高度な外国語で伝えたり、他国の様々なことを理解しておかなければいけない。とても大変で、難しいことがたくさんあるが、国と国とが繋がるための大切な架け橋であり、尊敬できる仕事だと思った。
- 日本を背負って世界と会談する際に、自己主張が弱い、反論をしないなど消極的なイメージを少しでも見せてしまったら輪から外れてしまうという内容がとても印象に残っている。講師の「日本をよくしたい」という思いから日本代表として他国と関わる役割がどれほど大変ですごいことなのかを知る良い機会になった。
- 英語学習のポイントなどとても説得力のある話を聞けて尊敬の念を抱いたのと同時に私も夢にむかってさらに努力が必要だなと思えた講演だった。今まであまり興味を持っていなかった外交官の仕事についても少し理解が深まり、もっと知りたいなと興味が湧いた。
- 小さな物事の積み重ねや発見が大きな仕事につながっていくということが印象的だった。そのために色々なことに興味、関心を持つことやイメージをすることが大切だと感じた。